



特定非営利活動法人 シンビオ社会研究会 <http://sym-bio.jpn.org/>

(公財)応用科学研究所  
御中

令和3年8月

京都大学名誉教授 吉川 榮和  
(シンビオ社会研究会 会長)

謹呈

## 岐路に立つ原子力を考える

吉川 榮和 監修 五福 明夫 編著

2021年8月20日 初版発行

拝啓

平素は当会の事業に一方ならぬご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびシンビオ社会研究会の会員有志により、標記の図書を出版しましたので、ここに貴所に献本させていただきます。本書の概要は、裏面の通りですが、利用者に高覧の便をお計らいくだされば幸いです。

まずはご案内まで

敬具

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学エネルギー理工学研究所内 シンビオ社会研究会

TEL&FAX: 0774-38-3482 Email:symbio.reserch.office@gmail.com

## 岐路に立つ原子力を考える

監修：吉川 榮和 編著：五福 明夫

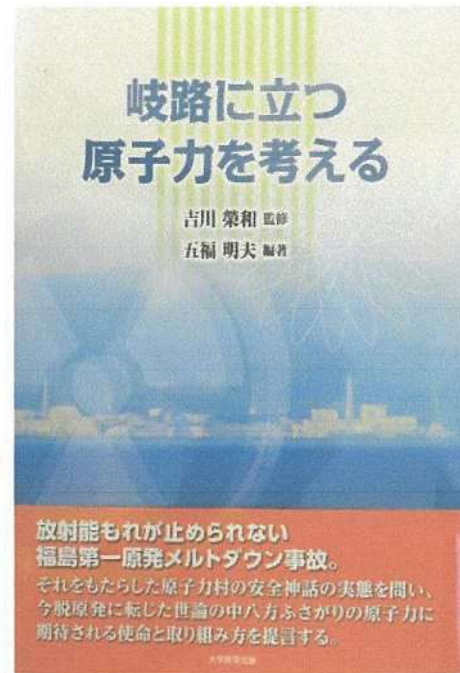
出版社：大学教育出版（株）

ISBN978-4-86692-144-0

発行：2021.8.20 定価：3,000 円＋税

### 監修者より

地球温暖化による異常気象（集中豪雨、土石流の発生）、大地震、津波、疫病蔓延……。大きな被害の出るたびに「安全安心の確保」が叫ばれます。安全は技術の問題、安心は受け手の心の問題。そこに受け手を安心させるための「安全神話」が登場します。本書では、原子力を事例に、「安全神話」の誤ったあり方とその社会影響を考えていただきたいと念じ、出版しました。



### 概要

事故後 10 年を経ても放射能漏れが続く福島第一原発。そのメルトダウン事故をもたらした原子力村の安全神話の実態を問い、さらに今や岐路にある我が国の原子力開発の状況を俯瞰する。脱原発に転じた世論の中、原子力に課せられた使命を提言する。

### 主要目次

- 第 1 章 日本の原子力揺籃期から福島事故まで
- 第 2 章 福島事故の結末—様々な事故調査・検証の系譜と原発世論の変化
- 第 3 章 原子力安全神話を検証する
- 第 4 章 原子力防災計画を考え直す
- 第 5 章 原子力損害賠償制度—福島事故の損害賠償の課題
- 第 6 章 増加した廃炉と放射性廃棄物の処理処分問題の複雑化
- 第 7 章 福島事故のもたらした原子力の将来像変化
- 第 8 章 規制と事業者による軽水炉原発安全性向上の課題
- 第 9 章 社会の原子力への信頼回復への課題
- 第 10 章 大学における原子力人材育成と課題

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学エネルギー理工学研究所内 シンビオ社会研究会

TEL&FAX: 0774-38-3482 Email:symbio.research.office@gmail.com